TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊 その1）

ドボクの面白さを、古いもの、新しいもの、消えゆくもの、
身近なものなどを通じて広くお伝えします。ウェブサイトとの連動企画です！

［絵］モリナガ・ヨウ／［文］溝渕 利明

土木学会誌8月号にて

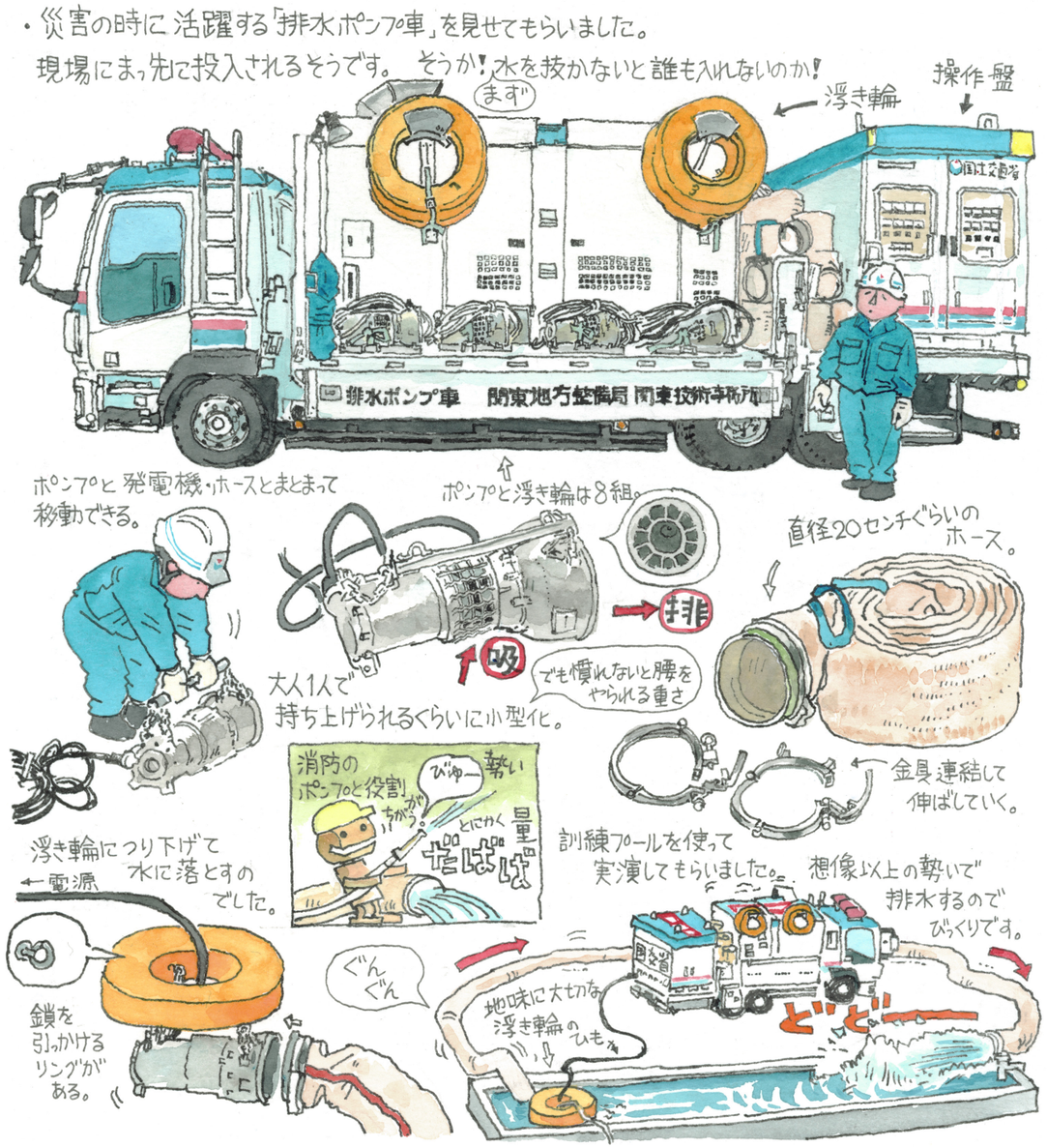
今回は、これまでとは趣を変えて、国土交通省関東地方整備局関東技術事務所の船橋防災センターの取材に行ってきました。国土交通省は、昨今頻発している大規模自然災害に対して、被災地への迅速な対応を行うためにTEC-FORCE（Technical Emergency Control Force：緊急災害対策派遣隊、2008年創設）を組織し、これまで多くの災害現場に部隊を派遣しています。船橋防災センターは、派遣部隊に必要な資機材を備蓄している施設で、例えば現地対策本部として使用する車両（車内で会議が行える車両）や排水ポンプ車、バックホウ（0・8㎥、遠隔操作式）などが格納庫に収容されていました（当然、いつでも出動可能なように整備された状態となっていました）。

車両などの機材だけでなく、海岸でもないのに大量の根固めブロックが置かれていました。河川堤防決壊時の復旧に備え備蓄してあるそうです。確かに、災害が起きてから、根固めブロックを造っていては間に合わないので、常時備蓄しておく必要があるのはわかるのですが、住宅街の真ん中に大量の根固めブロックが置いてあるのは、なんともシュールな情景でした。もう一つ驚いたのは、敷地の真ん中あたりに土が盛ってある場所があったのですが、なんと割栗石や山砂などを地下に備蓄（全部で9000㎥くらい）してある場所だそうで、災害時にはここから運搬するとのことでした。この防災センターは〝備えあれば憂いなし〟を正に具現化した場所といえるのではないでしょうか。

モリナガ・ヨウ　1966年生まれ。現場見学だけは経験値の高い文系イラストレーター。『築地市場 絵でみる魚市場の一日』で第63回産経児童出版文化賞受賞。
みぞぶち・としあき　法政大学デザイン工学部教授、専門はコンクリート材料、維持管理（非破壊検査）等、モットーは"コンクリートの一生を考える"。

取材「こぼれ話」

今回は、国土交通省関東地方整備局関東技術事務所の船橋防災センターの取材に行きました。この防災センターは、東船橋駅（私が初めて降りた駅です）を降りて、閑静な住宅街の中にありました。入口を入ると非常に広い敷地にこんもりとした土手のような場所とその向こうに膨大な数の根固めブロックと鋼製トラスのような資機材（応急組立橋）が置かれ、コンクリート舗装されたスペースが広がっていました。また、入口を入って左手方向に巨大な緑のテント群がありました。テントの前面には巨大な数字が1から8まで描かれていました。思わず〝国際救助隊の秘密基地、サンダーバード2号の格納庫みたいだ〟とモリナガさんに向かって叫んでしまいました。中には、鋼矢板や敷鉄板が収納されていました。

コンクリート舗装された場所で、排水ポンプ車の実演をしてもらったのですが、すべて人力（ポンプの持ち運び、ホースの展開等）で行われていたのを見て、重機などが入れない災害現場のことを考えれば当たり前のことなのかもしれませんが、自分で妙に納得してしまいました。防災センターを見学させていただいている間中、サンダーバードのテーマ曲が頭の中をグルグル回っていました。

（溝渕利明）